

interview

Text / Hirofumi Nishiyama

米澤 傑 さん

鹿児島大学医学部の名誉教授であり、専門の研究では最も名誉のある「日本病理学賞」を受賞。がんマーカー関連論文の著者世界ランキング第6位(日本人第1位)という偉大な功績を挙げた“名医”である一方、「プロより上手い」と賞賛され、世界からも注目を浴びている“テノール歌手”米澤傑さん。故郷の徳島・鳴門を離れて約半世紀。今年7月には徳島市内で凱旋リサイタルを開催する。まさに「天は二物を与える」を体現し続ける米澤さんにその軌跡を聞いた。

故郷で決まった私の分岐点

よく、「音楽との出会いは？」と聞かれるのですが、決してドラマチックなものではなく、鳴門第二中学校へ通っていた時に半ば無理やり合唱のクラブ活動へ誘われたのがきっかけでした。両親は教職についていましたが、特に音楽を聴かされて育ったということもなく、それまでは音楽とは無縁の生活だった、といっても過言ではありません。自分が「あれ？ひょっとして僕は歌えるんじゃないか？」と感じたのは、中学3年生の時。音楽の堺先生からの勧めで、県の音楽コンクールに独唱で出場した時です。本選入賞は逃しましたが、予選を通過(男性は2名のみ)したことで、自信に繋がったのは確かです。ちょうどその頃、中学校の体育館が新しくなり、落成式典で全校生徒の前で歌わせてもらったことも自分にとっては大きな出来事でした。「自分の歌声で、こんなに喜んでくれるんだ」と。

一瞬の喜びのために、私は2つの過酷な「山」を登る



「ずいぶん後に友人から聞いたのですが「学校の窓ガラスが割れるんじゃないかと思った」ほど、その時から地声は人一倍大きかったみたいですね(笑)」。

中学卒業後は徳島県立城南高等学校へと進学し、合唱部に入部しました。時間があればジュゼッペ・ディ・ステファノやマリオ・デル・モナコら当時全盛だったテノールのレコードに聴き入っていましたね。高校2年生の時、当時はまだコンクールの色が強かったNHK「のど自慢」にあった歌曲の部へ出場し、「オー・ソレ・ミオ」を歌い、徳島県第1位をとった良い思い出があります。四国大会では2位という成績でしたが、その時の悔しさが忘れられず、後にクラシック音楽の全国大会で優勝しリベンジを果たしました。当時は「自由気ままに」音楽と楽しく関わっていた、そんな高校生活でした。

その後、大学受験となるのですが、「のど自慢1位」の件もあり、周りからは「音楽大学を受験したら」という声もありました。しかし私自身、今まで専門的な音楽教育を受けていないこともあり、あまり乗り気にはなれませんでした。かといって工科系にも文化系にも興味がなく、そのどちらでもない医学部に進路を定めた結果、鹿児島大学に合格。故郷を遠く離れ、こうして現在も「医師」として、「テノール歌手」として鹿児島に居ることを考えれば、この時が私にとって人生のターニングポイントだった、と言えるのかも知れません。

気が付けば目前に2つの山

大学入学後も合唱団に入りましたが、実は当時、合唱があまり好きになれなかつたんです。どうしても私の声だけが飛び出してしまう。1年後、合唱団が他団体に吸収合併されたことを機に合唱団を離れ、独唱の勉強を始めました。

ある日、教育学部の音楽科に「勝手に」潜り込んで独唱の練習をしていた時、突然クラリネットの先生が駆け寄り「あ、これは叱られるな」と覚悟したのですが、「あなた、すごく良い声してる！すぐ習いに行きなさい」と。そのまま車に乗せられて……半ば拉致ですよ(笑)。連れて行かれた先は鹿児島短大で教えていた二期会のテノール・板橋勝先生のもとでした。それからの約4年間、板橋先生の教えが、今でも私のテノール歌手としての礎となっています。

大学卒業後は、同大学のがん病理の研究室に入り、2015年の教授退官までに病理学分野で最高の名誉「日本病理学賞」をはじめ、様々な栄誉ある賞を受賞いたしました。その中で32歳の時には鹿児島でオペラ・デビューを果たし、その数年後には、転機となった指揮者・井上道義さん(大河ドラマ「篤姫」のテーマ曲指揮者)との出会いもありました。井上さんとの縁からNHK教育テレビの連続番組「第九をうたおう」の独唱者に抜擢され、これがきっかけで「鳴門の第九」をはじめ全国各地の「第九」演奏会にもソリスト(独唱者)として呼んでいただける



オペラ「トゥーランドット」の主役・カラフ王子をイタリアと日本で演じた際の舞台写真(2005年)

【プロフィール】

米澤 傑 (よねざわ たける)。鳴門市撫養町林崎出身。鹿児島県鹿児島市在住。1月29日生まれ。医学博士。鹿児島大学名誉教授(医学部・病理学) / 医療法人・玉昌会 理事 / 健診クリニック 院長 / 病理専門医・日本医師会認定産業医。

◆主な受賞歴◆

日伊音楽コンクール入選、太陽コンソルト・カンツォーネ・イタリアーナ優勝、日本クラシック音楽コンクール声楽部門第1位・グランプリ獲得。平成10年度「鹿児島県芸術文化奨励賞」受賞。

日本病理学会で最も名誉ある「日本病理学賞」受賞。「高松宮妃癌研究基金学術賞」受賞。各種がんマーカー等の論文の著者世界ランキング第6位(日本人トップ)にランクイン。



発売したCDはタワーレコードウィークリーチャート(J-Classical)1位を何度も記録した。※写真は最新作のCD

ようになつたんです。私は現在も病理専門医を続けながら、クリニックの院長として年間1万件以上の健診を行っています。医学に精進しながらも、並行して音楽の道を邁進したのが現在の私の姿だと自負しています。「医学と音楽との両立は大変なのでは？」とよく皆さんに不思議がられますが、答えは登山家と同様、「目の前に山」ならぬ「目の前に医学と音楽の2つの舞台があるから」。苦しいの先にある一瞬の喜びに魅せられたひとりなのかもしれません。

7月8日(木)、「あわぎんホール」にて凱旋公演とも言える「米澤傑 テノールリサイタル 2021 in Tokushima」を開催します。私の歌声をぜひ「生」で故郷の皆さんに聴いていただければ幸いです。